

ターゲットを意識した血液浄化療法の可能性

～ DPCデータからの考察～

The Potential of Target-oriented Blood Purification Therapy
- A consideration from based DPC Data -

開催
日時

2023年 10月21日(土) 14:50～15:50

会場

第3会場
アイーナ いわて県民情報交流センター 804A

座長

中永 士師明 先生
秋田大学大学院医学系研究科 病態制御医学系救急・集中治療医学講座

演者

林 健太郎 先生
獨協医科大学 救命救急センター・集中治療部 / 自治医科大学 データサイエンスセンター

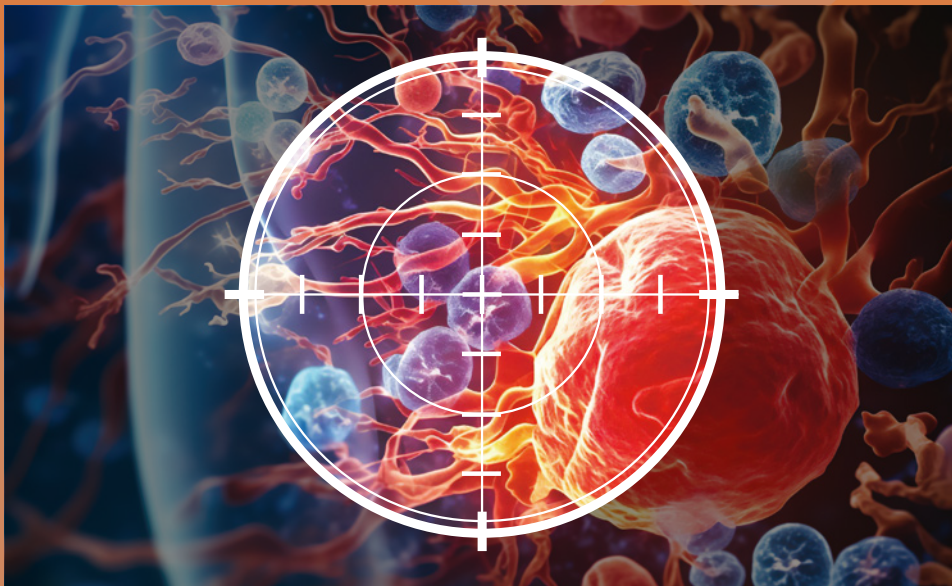
- 整理券の配布はございません。
詳細は、学会学術大会ホームページをご覧ください。

学会学術大会ホームページ
<https://www.m-toyou.com/jsfa44/index.html>



ターゲットを意識した血液浄化療法の可能性 ～ DPCデータからの考察～

The Potential of Target-oriented Blood Purification Therapy
- A consideration from based DPC Data -



敗血症は感染に対する制御不能な生体反応に起因する、生命を脅かすような臓器障害である。炎症性メディエータ/Damage-associated molecular patterns(DAMPs)の血中濃度上昇はAKIの重症化や敗血症の致死率上昇に関連しているとされている。そのため、炎症性メディエータ/ DAMPsの吸着、除去を目的としたNon-renal indicationとしての血液浄化療法が世界的には注目されているが、未だ有用なエビデンスはない。今回我々はDPCビッグデータを用いて、消化管穿孔に伴う汎発性腹膜炎および肺炎に対して、AN69ST膜とその他の膜による臨床予後に与える影響の比較・検討を行った。本研究結果から、他の膜と比べるとAN69ST膜を用いた血液浄化療法は肺炎に対しては有効であり、汎発性腹膜炎に対しては有効ではない可能性が示唆された。そこからソースコントロールの有無など病態の違いや敗血症となった起因菌の影響、膜による吸着特性の違いなど様々な考察が生まれる。すなわち有効な病態や想定起因菌、除去対象とするサイトカインによっても血液浄化療法の効果が異なる可能性がある。特にソースコントロールの有無に関しては持続血液濾過透析による血液浄化療法として合理的であり、今後の検討課題が明らかになる結果となった。依然としてAN69ST膜を含めた血液浄化療法に関するエビデンスは不足していると言わざるを得ない。本研究結果からAN69ST膜による血液浄化療法は臨床的なターゲットを絞れば、有効性が明らかになる可能性が示唆され、それを探るための更なる研究が必要であると考えられる。